

ぼいす

北区飛鳥山博物館だより

2014.9.20

33

秋期企画展

名所物語 浮世絵にみる 北区の近代



「美人十二月 其十 紅葉」(部分) 宮川春汀 明治37年(1904)

会期

10月28日(火)～12月14日(日)

前期 10月28日(火)～11月12日(水)

中期 11月13日(木)～11月28日(金)

後期 11月29日(土)～12月14日(日)

休館日

11月3日・24日をのぞく毎週月曜および11月4日(火)・25日(火)

開館時間

午前10時～午後5時

会場

北区飛鳥山博物館 特別展示室・ホワイエ

観覧
無料

名所物語 浮世絵にみる北区の近代

【企画展関連イベント】

このたび北区飛鳥山博物館では、「名所物語 浮世絵にみる北区の近代」を開催するはこびとなりました。本企画展は、共立女子大学名誉教授・国際浮世絵学会理事である、伊藤紀之氏ご所蔵の北区関連近代浮世絵・版画資料116点を中心に、明治時代以降の名所の姿、地域像の変遷をたどるものです。

昨年秋に当館で開催した、「名所物語 浮世絵にみる北区の江戸時代」は、北区の近世の名所の姿を明らかにするものとして、多くのご観覧者のご関心を集め、大きな反響を呼びました。本展は、これに引き続き、近代以降の北区の名所の変遷を跡付け、名所特性の持続と変容のあとを分かりやすく紹介するものです。

なお展示期間は、資料保存環境に留意して、会期を3期に分け展観に供することを予定しています。

秋の一日、描かれた名所の光景にふれてみてはいかがでしょうか。

セミナー 五感で知る近代北区の浮世絵

- 第1回 日時：11月1日（土）午後2時～4時
会場：当館講堂
講師：増田由貴（当館博物館調査員）
「近代浮世絵と描かれた楽器・音色」
講師：田中葉子（当館文化財専門員）
「近代浮世絵と視覚 顔料の世界」
- 第2回 日時：11月6日（木）午後2時～4時
会場：当館講堂
講師：石倉孝祐（当館学芸員）
「近代浮世絵と感覚」
講師：マーク・ボナー氏
（ビストロ・ドゥ・マーク オーナーシェフ）
「味覚と地域」

講演会 描かれた日本の自然 異邦人のまなざし

- 日時：11月15日（土）午後2時～3時
会場：当館講堂
講師：白幡洋三郎氏（国際日本研究センター名誉教授）

講演会 描かれた近代の北区

- 日時：11月22日（土）午後2時～3時
会場：当館講堂
講師：伊藤紀之氏
（共立女子大学名誉教授・国際浮世絵学会理事）

参加希望セミナー（回）・講演会名を明記のうえ、
往復はがきにて申込み
締切 10月24日（金）必着

VOICE 記憶という資料

飛鳥山博物館は、様々な資料を展示する場であり、また、展示している資料以外にも多くの資料を所蔵しています。博物館では、それら資料の収集・保存・活用と同時に、調査も大事な活動の一つです。例えば、何か道具を収集する際には、その道具について聞き取り調査を行います。いつ誰に作られたのか、どこでどのように使われたのか。そのような聞き取り調査によって、道具が経てきた歴史が見えるようになり、道具の持ち主やその地域での記憶が情報として加わることで、その道具は地域資料として多くのことを伝えてくれるようになります。

また、物体としてのモノ資料だけではなく、記憶そのものも、貴重な資料といえます。記憶は、記録しておかなければ

消滅してしまう資料です。昨年度から、戦中・戦後のくらしの変化についての聞き取り調査を始めました。家庭のこと、学校のこと、仕事のこと、地域のことなど、約70年前の体験を思い出していただきながら、記録をとっています。日常生活の様子については、文字として記録されていなかったことも多く、聞き取り調査を通じて、戦後にくらしが大きく変化していく様子が見えつつあります。記憶はきわめて個人的なものです。が、個人的な記憶の重なりが、その地域の歴史を形づくっています。記憶という資料を受け継いでいけるように、地域で共有できるように…。そんな思いで調査ノートを開いています。（田中）

大地・水・人

「飛鳥山遠足」を振り返る

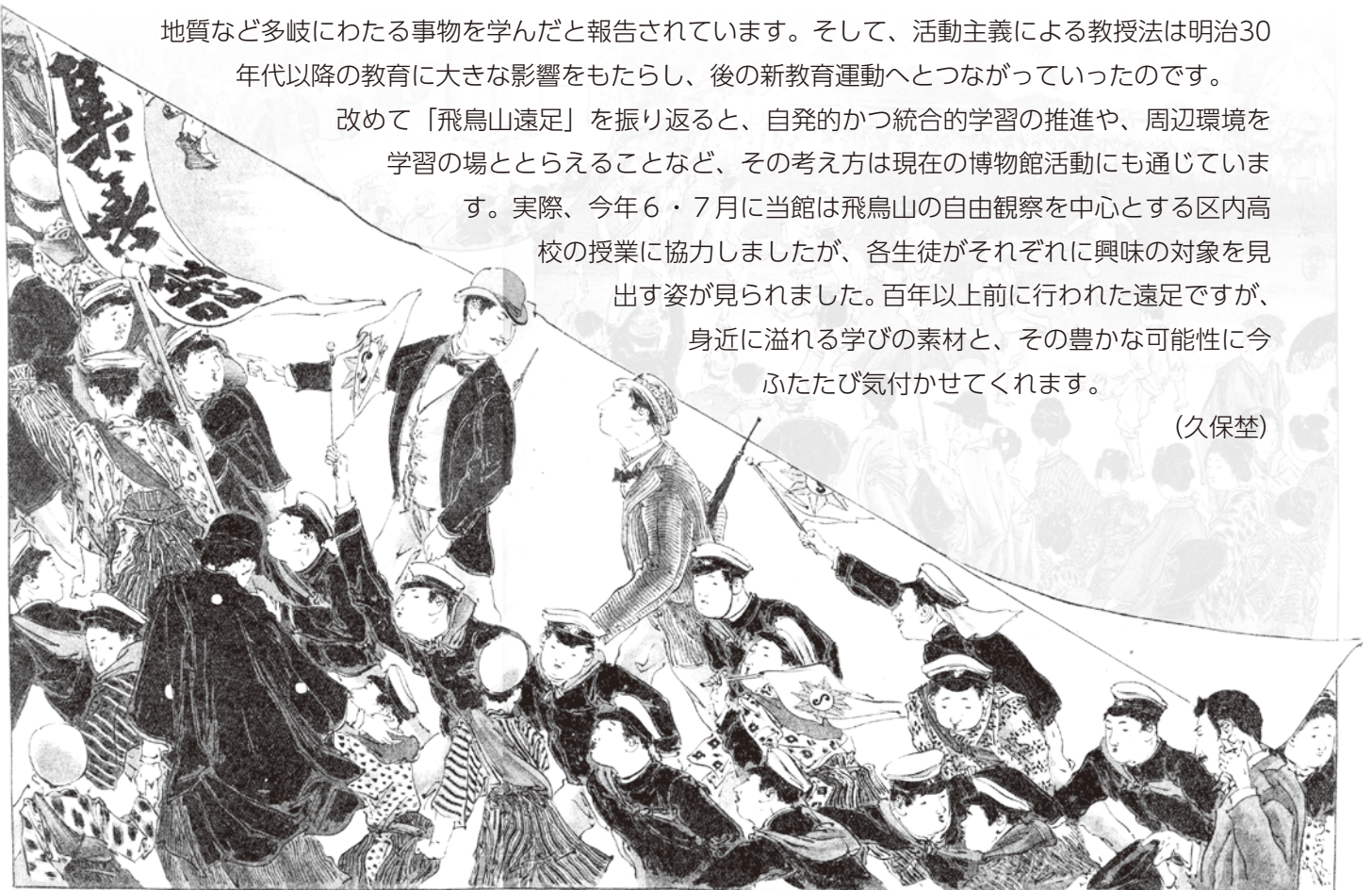
初夏や秋、飛鳥山では遠足にやってきた子どもたちの集団をしばしば目にします。それはごく日常の光景ですが、この飛鳥山が校外学習の原点であり総合的学習の源となる地であることは、あまり知られていません。

教育史において「飛鳥山遠足」として有名な校外学習は、明治29年（1896）11月7日に樋口勘次郎という教師によって行われました。樋口は長野県で初等教育に従事した後、明治25年（1892）に東京高等師範学校に入学。卒業後は同校附属小学校で教鞭をとりました。当時の教育は「道徳的品性の陶冶」を目的としたヘルバルト式教授法が主流であり、教師の講義をもっぱら生徒が静聴する形で行われていました。これに対し、樋口は教師主体ではなく児童を活動させることによって興味・関心を持たせ、より積極的な自発活動につなげるという「活動主義」を唱えました。さらに、樋口は教科ごとに学ぶのではなく、関連分野をあわせて学習する「統合教授」が教育効果を発揮すると考えました。

樋口が尋常科2年生の自由作文の授業として行った「飛鳥山遠足」は、まさに「活動主義」に基づく「統合教授」の実践でした。樋口は遠足を単なる遊山ではなく、「世界を大学校」ととらえ、遠足を事実の見聞や経験の機会と位置づけたのです。遠足ルートは上野・不忍池から西日暮里・田端を経て、飛鳥山が終点です。樋口は下見を入念に行った上で、生徒に地図を持たせること、不忍池を観察させること、上野では動物園・博物館など施設の位置を地図と対照させること、諏訪神社境内から北豊島郡・南足立郡の田畑や村落・工場などを観察させること、田端操車場を見せることなどを綿密に計画し、事前準備を行っています。実施後、遠足の内容は生徒の作文を通して紹介され、遠足を通して生徒が動物学・植物学・農業・商業・工業・地理・地質など多岐にわたる事物を学んだと報告されています。そして、活動主義による教授法は明治30年代以降の教育に大きな影響をもたらし、後の新教育運動へとつながっていったのです。

改めて「飛鳥山遠足」を振り返ると、自発的かつ統合的学習の推進や、周辺環境を学習の場ととらえることなど、その考え方は現在の博物館活動にも通じています。実際、今年6・7月に当館は飛鳥山の自由観察を中心とする区内高校の授業に協力しましたが、各生徒がそれぞれに興味の対象を見出す姿が見られました。百年以上前に行われた遠足ですが、身近に溢れる学びの素材と、その豊かな可能性に今ふたたび気付かせてくれます。

（久保埜）



【参考】明治時代の遠足 『風俗画報』第97号（明治28年8月発行）より

滝野川

中山道といえば江戸の五街道のひとつ。69の宿場を次いでお江戸と京を結ぶ幹線道路でした。北区滝野川6丁目にある滝野川銀座通りは、まさにその中山道の道筋にあたります。この通りを歩いてみると、さすがに江戸の風情はみうけられませんが、大正あるいは昭和といった歴史を感じさせてくれる建物がそこかしこに。一歩わき道にそれれば、そこは昔懐かしい空間にタイムスリップ。今回は、江戸に始まる歴史の道が、今に息づく滝野川をクローズアップ！

街道の店から全国へ

みなさんは滝野川三軒家ってご存知ですか？現在の滝野川銀座通りの辺りは昔こう呼ばれていました。この通りは江戸時代には中山道の道筋で、この街道沿いに三軒の種子屋が店を構えたことから、そう呼ばれるようになったのです。往來の盛んな道筋なので多くの人々が種子を買ひ求め、参勤交代で領地に帰る大名なども三軒家の質の良い種子を持ち帰ったことから評判になりました。特に人参や牛蒡は「滝野川人参・滝野川牛蒡」と呼ばれ、今でいうブランド野菜として人気があったそうです。次第に店も増えてゆき、この通りを種子屋街道と呼ぶ人もいたそうですよ。時代は変わり、今ではその流れを引き継ぐのは数軒になりました。一方野菜は、滝野川人参は姿を消しましたが、滝野川牛蒡は別の地域で栽培されています。滝野川に縁のある野菜とそれを発信していた種子屋が長く続くといいですね。



かつての種子屋（東京種苗株式会社）

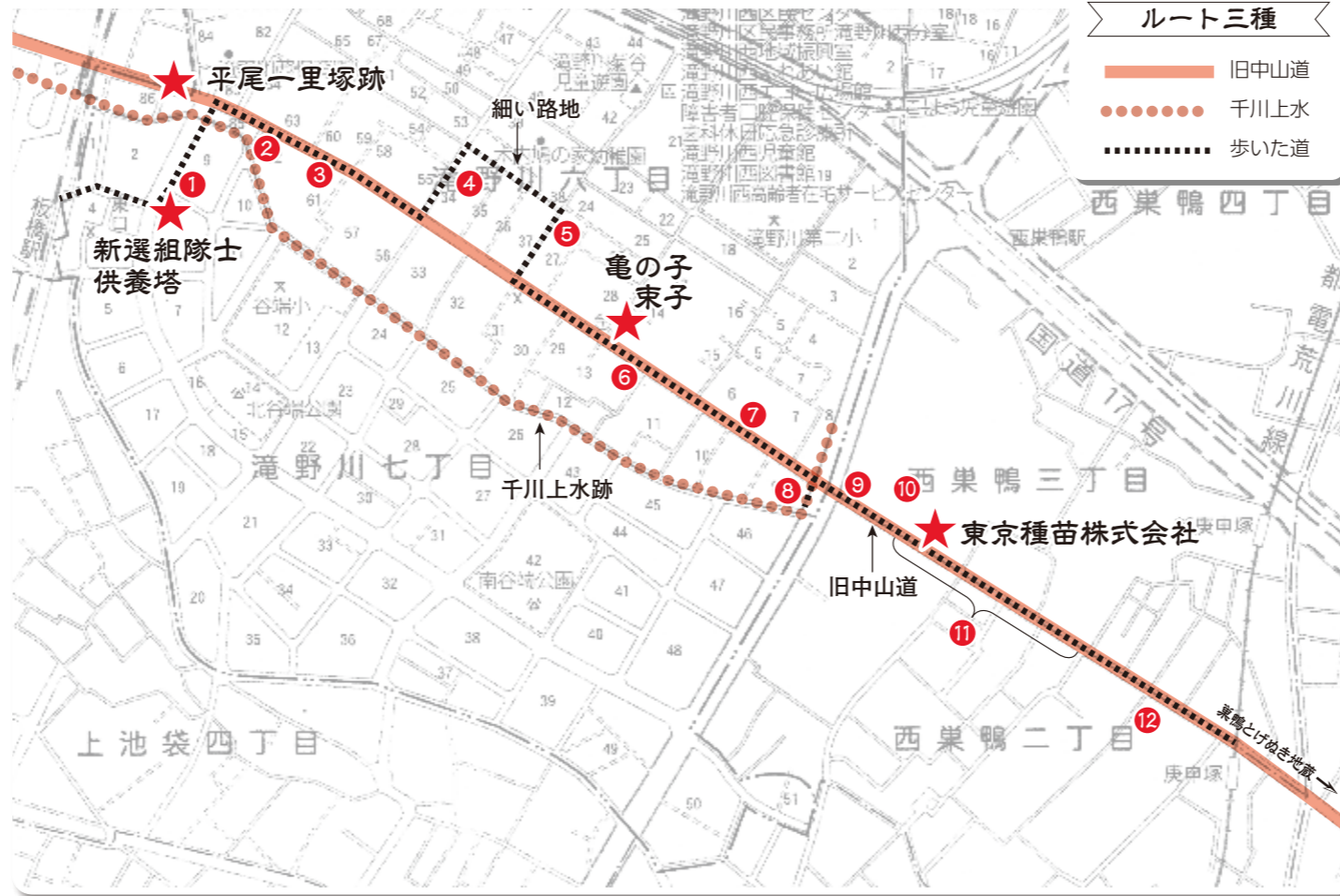
震災・戦争を乗り越えた“たわし”の百年

8月のとある日、明治通りから滝野川銀座通りを板橋方面に歩いていると、シュロの木に囲まれた西洋建築の建物がありました。どことなく歴史的な風格が漂っています。よく見ると入り口横の木に大きな蝉が…。え？たわしでできている！実はここは、創業から百年以上も続く亀の子束子専門店。今や誰もが知っているあの亀の子束子はこの会社で作られていたのです。現在の建物は大正11年に建てられ、震災・戦火を耐え忍んで今日まで当時の姿を留めているのです。店内をのぞいてみると天井にはたわしのシャンデリアが！ペーブル形のお洒落な白たわしや、紐がついた健康たわしなどがずらり。百年以上経った今、たわしと言っても幅広い世代向けの、それでいてお洒落なものも多いようです。たわしをプレゼント！なんていうのもアリかもしれませんね。



入り口右側の木に注目！

★クローズアップ滝野川は平成26年度博物館実習生が中心となって作成しました。



滝野川の散策ポイント



- 1 どんな味がするのかな？
- 2 わき道にある馬頭観音
- 3 今なお続く種子屋さん
- 4 現役？？
- 5 某銭湯映画のロケに使われたとか
- 6 銅板が時代を感じさせます
- 7 見上げるとベランダに夏野菜が！（日本農林社）
- 8 ひっそりたざむ千川上水分配堰碑
- 9 ちっちゃなパチンコ屋。その名も「天国」！
- 10 サザエのような外観
- 11 昔の家が立ち並びます
- 12 延命地藏 長生きできますように

セピア色の小路

滝野川銀座通りを一歩わき道へ入ると、そこは生活感のある住宅地です。細い路地に密集した家、玄関先の鉢植えには、どこか懐かしさを感じます。ふと見上げると、高い煙突が一本。大正時代創業の銭湯“稲荷湯”です。現在の建物は昭和5年に建造されたもので、入り口の欄間や瓦の三段屋根が風情を漂わせています。その向かいには、一瞬見逃してしまいそうなほど細い路地が。猫ならいざ知らず、人とすれ違うには背中合わせで、やっと通れる狭さです。路地を抜け出るとそこは商店街。お米屋さんや酒屋さんを横

目に見ながら進むとまた路地が。そこには昔ながらのポンプ井戸があります。井戸端会議ではどんな話題で盛り上がったのでしょうか。夕暮れ時にはどこからかカレーの香りがしてきそう。そんな古き良き時代の雰囲気が残る、なんだか心温まる町です。



けものみち。もとい、猫の道！？

『誠』の人を慕って

—近藤勇と新選組隊士供養塔—

幕末の京都にその名を轟かせた、新選組局長・近藤勇。鳥羽・伏見での敗走を経て、下総流山で捕らえられた近藤は、明治元年4月25日、滝野川の平尾一里塚付近で斬首。首は京都三条大橋へ、身体は現在の新選組隊士供養塔の立つ地に葬られました。この供養塔は、元新選組隊士の永倉新八が、往時の局長を慕って建てたものです。敗色明らかな旧幕府に忠を尽くし、最後まで戦い続けた近藤勇。その「誠」を貫く生き様に惹かれ、今もなお全国各地から、この石塔の前に多くのファンが集います。新選組、そして近藤に対するその熱い思いを窺えるのが、墓地の一角に納められた数々のノート。近藤の信念に共鳴し、勇気をもらったという書き込みは絶えません。中には試験の悩みや将来の夢から恋愛相談まで…。



供養塔と静かに見守る局長！

近藤はそんな訪問者たちを、今日も静かに見守っています。

思い出写真館

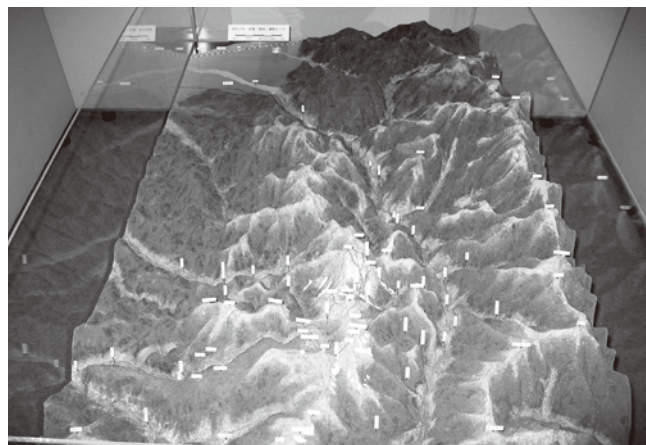


昭和30年代の滝野川銀座（倉田正義氏提供）

春期企画展「岳人冠松次郎と学芸官中田俊造」は2000年10月に催した北区に縁のある登山家冠松次郎^{ゆかり}没後30年の特別展で課題を残していた戦前期の文部省山岳映画の構造に焦点を当てたものでした。冠氏が関与した現存する4つの白黒映画（黒部峡谷探険・赤石岳・鹿島槍ヶ岳と下廊下・尾瀬）には昭和初期の手つかずの自然が色濃く記録されており、誠に貴重です。

さて、展示では昭和3年6月に文部省社会教育課が製作し冠氏が監修した映画「劔岳」を紹介する一角がありました。本作品はフィルム残片が十数点確認されているだけで本編は残っておらず、唯一の手掛かりが冠氏の紀行文（『劔岳』昭和4年6月、第一書房刊所収）でした。本書に添付された略図や陸測図も参考にして撮影班がたどった道筋をグラフィックパネルで表現し、さらに現実感を高めるため、縮尺33000分1で地形模型（L1500mm×W900mm：北縁は日本海沿岸、南縁は立山連峰の鳶山が収まる範囲）を特注し、模型上に撮影ルートを投影しました。当該地は海拔0mから約3000mまでの高度差がありますが、地形図の等

高線に合わせ切り抜いた薄合板を海拔300m未満は30mずつ、300m以上は50mずつ積層（計64枚）して仕上げました。その結果微細な高山地形が表現でき、見学者から「実際に現地を訪れたような気分になった」と感想をいただくことができました。通常は平面図のみで情報を提供することが多いのですが、たまには展示手法を変えてみる意義も感じた次第です。（中野）



地形模型全景（南から北を眺める）



資料紹介

オリンピック国民運動 推進連絡会議の DUST BOX

2013年9月8日、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催が決定しました。前回の東京オリンピック開催から56年ぶりとなります。

飛鳥山博物館の収蔵資料には「OLYMPIC TOKYO 1964」と文字が印刷されている樹脂製のゴミ箱があります。年代の示す通り、前回の東京オリンピック開催の際に造られて、おそらく公共の場所への設置用に配布されたものです。ゴミ箱の別の面には「美しい国土でオリンピックを」の文字が印刷されています。オリンピック開催といえば、新しい競技場の建設や道路・鉄道の整備などに注目が集まりますが、前回の東京オリンピックでは、公衆道徳や国土美化など、海外からのお客様を迎えて「おもてなし」す



るためのソフト面の様々な運動も行われました。オリンピック開催の前年に政府と約180の民間団体により「オリンピック国民運動推進連絡会議」が組織され、開催成功に向けて「オリンピック国民運動」が展開されました。会議は7つの部会に分かれて活動が行われ、外国人への接遇や公衆マナーの向上などに力を尽くしました。この中の一つが「国土美化運動」部会です。「国土ゴミ一掃運動」と「花一ぱい運動」が目標として掲げられ、博物館の資料はこの運動の一環で造られたものと思われます。6年後に迫った21世紀の東京オリンピック、今回はどのような「おもてなし」で外国の方々を迎えることになるのでしょうか？（山口）

写真に見る あの日 あの時

道の下は川だった?!

今夏も猛暑となり、冷たい水が恋しい日が続きました。そんな中でカンカン照りの下を歩きながら、通りの下のせせらぎに思いを馳せていた人間は、私のほかにはあまりいないかと思います。写真は昭和44年（1969）9月17日に撮影されたもので、今まさに北耕地川が暗渠^{あんきよ}になろうとしています。北耕地川とは、稲付川や根村用水とも呼ばれる石神井川の用水のひとつで、元禄8年（1695）に石神井川に設けられた根村堰（現板橋区双葉町）から分流し、下板橋から稲付や赤羽根（赤羽）など7か村を流れ荒川（現隅田川）に注ぐ灌漑用水として開削されました。近代以降の農業や工業にも欠かせなかった用水ですが、昭和のころには次第にドブ川となり、現在その多くは暗渠化されています。かつて写真の向かって右手奥には堰があり、根村から稲付まで流れてきた用水を神谷方面に分流していました。現在は写真の柵と同じ場所にガードレールが設けられ、暗渠の上が車道として整備され、母娘が通っていく道路が歩道となり車道より一段高くなっています。現地を訪れると向かって左側には崖がせまり、台地と低地の境を用水が流れていたことが確認できます。また暗渠を境に左手が十条仲原、右手が赤羽西地区となっており、用水の流れが現在の住居表示による区画の境界線になっています。

北区内にはほかにも暗渠となった川や用水があります。頭上の陽光と路面の照り返しの中を歩く際には、足元の流れを想像してみると、頭の中だけでも涼しくなるかもしれません。（増田）



浦野栄一氏撮影

博物館インフォメーション

鉄剣が初お目見え！

ごてんまえ
御殿前遺跡出土の弥生時代の鉄剣が、満を持して皆様に初お目見えいたします。常設展示室内にて、9月30日（火）～11月3日（月・祝）までの期間限定公開です。お見逃しなく!!

区民まつりと文化の日は 常設展示観覧料が無料!!

区民まつり〔10月4日（土）・5日（日）〕と文化の日〔11月3日（月・祝）〕は、当館の常設展示観覧料が無料になります。すでにご覧いただいた方もそうでない方も、この機会にぜひじっくりとお楽しみください。

実はお得にご観覧いただけます！

当館の常設展示観覧料には、様々な特典割引があります。東京メトロや都営交通、北区のコミュニティバスの一乗車券などです。詳しくは、当館受付までどうぞ。

人物往来

本年3月31日をもって、任期満了により人見佑加子学芸員が当館を“卒業”いたしました。後任として4月1日より安武由利子学芸員が着任いたしました。すでに展示や講座で活躍中です。今後ともよろしく願い申し上げます。



WANTED

北区の昔を伝えるモノ 資料や写真を探しています！

当館では、地域で使われていた生活用具や古い写真など、昔の暮らしが分かる資料を探しています。お心当たりの方は、ぜひ当館（電話03-3916-1133）までご一報ください。

秋 9月～12月

- 特別展覧会「第13回 人間国宝奥山峠石と北区の工芸作家展」
..... (9/13～10/13)
・付帯事業「陶芸を楽しむ学ぶ講座」・「金工に親しみ学ぶ講座」・「人間国宝に学ぶ！鍛金体験講座」・「作家が語る！作品解説」
- 常設展示室活用展示「初公開！御殿前遺跡出土の鉄剣」
..... (9/30～11/3)
- 飛鳥山3つの博物館合同企画 GO！ゴー！ミュージアム2014
「勾玉ストラップをつくろう！」..... (10/4・5)
- サロン講座 北区モノ語り⑥⑦⑧ (10/18、11/23、12/20)
- 講座「夜の子ども古民家体験」 (10/19)
- 野外講座「旧松澤家住宅解説会」 (10/25)
- 野外講座「親子でご近所歴史探検隊！③稲付編」 (10/26)
- 秋期企画展「名所物語 浮世絵にみる北区の近代」
..... (10/28～12/14)
・関連事業「五感で知る近代北区の浮世絵」①② (11/1・6)
・記念講演「描かれた日本の自然 異邦人のまなざし」..... (11/15)
・記念講演「描かれた近代の北区」 (11/22)
- 野外講座「歩く勉強会～検証！明治時代の遠足ルート」 (11/8)
- 文化財講演会「多紀家墓所と江戸の葬制」 (11/9)
- 野外講座「北区×世田谷区合同解説会—河川沿いの古民家」..... (11/13)
- 野外講座「北区文化財めぐり（王子・西ヶ原編）」 (11/16)
- 文化財公開講座「『稲付餅搗き唄』の実演と体験」 (11/29)
- 野外講座「江戸東京野菜・大蔵大根の産地を訪ねる」 (12/5)
- 講座「飛鳥山由来の往来物をよむ」 (12/6)
- 講座「考古楽講座〈中級編〉考古学を学ぶ—土器の話—」
..... (12/7・14・21)
- 常設展示活用展示「熊野神社の白酒祭」 (12/13～1/12)
- ミニ展示「あすかやま十二支—未—」 (12/13～1/31)

冬 1月～3月

- 小学校対応事業「来て、見て、さわって！昔の道具」 (1/10～2/28)
- 講座「親子でご近所歴史探検隊！④十条編」 (1/17)
- サロン講座 北区モノ語り⑨⑩ (1/24、2/14)
- 講座「第25回新聞から読む考古学—2014年下半年を振り返る—」
..... (1/25)
- 講座「王子狐の黄表紙をよむ」 (1/31)
- 飛鳥山3つの博物館合同企画「飛鳥山1日大学」 (2/21)
- 講座「花開く！園芸と近代の北区」 (2/22)
- 野外講座「考古楽講座 遺跡に行こう！」 (3/8、3/15)
- 回想法導入展示「オボエテマスカ？—あの暮らし・この道具—」
..... (3/14～6/22)
・付帯事業「ギャラリートークα 道具と映像でよみがえる懐かしの暮らし」 (3/28)
- 野外講座「谷田川の源流を探る」 (3/22)

※催し物は仮称のものを含みます。()内の実施日は予定です。
詳細は、当館発行の催し物案内、北区ニュース、ホームページをご覧ください。

北区飛鳥山博物館だより ぼいす33

[発行日] 平成26年9月20日
[編集・発行] 北区飛鳥山博物館
〒114-0002 東京都北区王子1-1-3
TEL. 03-3916-1133
[印刷] 川口印刷工業株式会社

学芸員リレーエッセイ

博物館
いろは歌留多



る
ど(井戸)水で
すいかを冷やし
涼をとる

当初の冷夏予想もなんのその。今年の夏も、連日の猛暑日続きで身体に堪えたという人も多かったのではないのでしょうか。梅雨入り間近の5月、「どうやら今年も暑いらしい」との情報をキャッチした私たち「夏休みわくわくミュージアム」担当学芸員3人は、この当館の恒例行事を、急ぎよ、今夏は「涼しさ体感博物館(みゅーじあむ)」をサブタイトルに、全館で涼にまつわるイベントを開催することに方針転換させたのでした。

特別展示室では「涼のきおく～あのころの夏の過ごし方～」とし、便利な電化製品が登場する前の夏の過ごし方を紹介。しかし昭和時代も終わりに近いころに生まれた私としては、知識としてはあっても、いまいち実感のないところ。「担当者が体感せずして、何が涼しさ「体感」博物館だ！」と、ためしに実家近くに残る井戸ですいかを冷やして食べてみることにしました。

ひとくち食べてみて、予想外の冷たさとおいしさにびっくり。食べ終わるころには、すっかり汗も引き、あのころの夏の過ごし方に間違いはなかったと実感することができたのでした。電気代もかからず冷たいものが食べられるとあっては、すでに今から、来夏は、トマトやきゅうりにも手を広げてみようかななんて企んでいる私です。(安武)

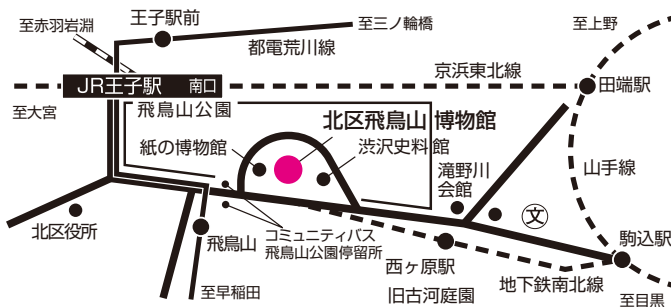
利用のご案内

- 【開館時間】 午前10時から午後5時 ※観覧券の発行は午後4時30分まで
- 【休館日】 毎週月曜日(月曜日が国民の祝日・休日にあたる場合は開館し、直後の平日に振替休館)
年末年始(12月28日～1月4日)
このほかに臨時休館日があります。

【常設展観覧料】

- ・小学生未満は無料
- ・団体扱いは20名以上
- ・三館共通券は当館のほか、渋沢史料館、紙の博物館をご覧ください。

	個人	団体	三館共通券
一般	300円	240円	720円
高齢者 (65歳以上)	150円		
小・中・高	100円	80円	240円



交通のご案内

- [JR京浜東北線] 王子駅南口より徒歩5分
- [地下鉄南北線] 西ヶ原駅より徒歩7分
- [都電荒川線] 飛鳥山停留所より徒歩4分
- [都バス 草64、王40系統] 飛鳥山公園停留所より徒歩5分
- [北区コミュニティバス] 飛鳥山公園停留所より徒歩1分

編集後記

朝夕過ごしやすくなり、日暮れの飛鳥山公園では爽やかな虫の音が聞かれるようになりました。足元をはねる蛙に注意しながら、声をふりしぼる蝉の中を帰路に就いていたのが昨日のことに思われます。江戸時代以来の名所であるこの地には四季折々の風景があり、浮世絵にも描かれてきました。ぜひ飛鳥山そして当館にお越しいただき、皆様の目で耳でお楽しみください。(増田)